

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月13日(土)

### 《堅信に臨んで》

今日は、『堅信』の勉強会がありましたね。

『堅信』とはどういうことでしょうか。『堅信』の一番大きな目的は、聖霊の七つの恵みをいただくことですよね。では、七つの恵みをいただく目的は何でしょうか。

『堅信』を、『洗礼』の次に受ける七つの秘跡の中の一つとは思わないでください。『堅信』は、受け身ではなくて自ら求めるものです。能動的なものです。

『洗礼』は、受動的なものです。他から受けるものです。司祭から授かるものです。司祭は「父と子と聖霊のみ名によってあなたに洗礼を授けます。」と言って授けます。そして、『洗礼』を受ける人は、「私には何もありません。何も分かりません。」という気持ちで受ければよいのです。

『堅信』は逆です。『堅信』には積極性が求められます。「私は今、あなたからいただいたことに感謝をしています。これからは、あなたからいただいた全てのことを人々に伝えます。」という覚悟を持って『堅信』の勉強に入るのが正しいです。

皆様をお願いしたいことがあります。『堅信』の勉強をただ勉強することだと思わないでください。それは、祈りの中で、強い願いと共に「私は、あなたの聖霊を体験したいです。洗礼を受ける時に、聖霊をいただいたと教えられたのですが、はっきりわかりません。それが直接体験できるように、あなたの働きを願います」という気持ちで勉強に入らなければなりません。

すでに『堅信』を受けている先輩の信者さんがたくさんいます。しかし、あまり覚悟もなしに『堅信』を受けたのではないかという気がします。なぜならば、『堅信』の恵みを受けた人には、必ず受身ではなく、能動的に、積極的に動こうとする恵みが与えられているはずですが、そのような動きが見られないからです。先輩の間違えたところがあれば、皆様はそれを退けましょう。そして「この堅信によってもっと積極的に信仰の味を味わえる。」という気持ちで『堅信』の秘跡を迎えましょう。そうすれば必ず違ってきます。それは理論的ではなく、頭ではなく、体で、心で、体験するものです。準備をきちんとなさった方の中には、体がものすごく熱くなる体験をなさる方も結構います。これは按手されるときも同じです。それは、授ける人の能力ではなくて受ける人の能力です。何の能力かと言うと、「受けようとする心が準備されている」ということです。それによって癒されたり、いろいろな聖霊的な恵みを体験したりすることが可能になります。

どうかお願いします。今度の堅信式の秘跡を本当に望んでください。「私にはよく分かりませんが、あなたが私に注ごうとする7つの恵みを具体的に体験できるようにお願いします。」と祈ってください。たぶん先生の導きによって祈りから勉強が始まると思います。その祈りも、そういう気持ちで捧げてください。熱いですよ。本当に熱くなります。そして今まで不安になったものさえ何でもないものに

なってしまいます。いつもがっかりしている自分の性格がものすごく肯定的に、希望的になるのがわかります。人に手を伸ばすのが苦手だった内向的な人も自分から先に人に手を伸ばさなければならぬ気持ちに導かれます。何かする時に、これがよいかあれがよいかの迷いなくなります。自分でも気づかないうちに優先的に神様のことを考えるようになります。

これが『堅信』の意味です。今の先輩方はみんな立派ですので(笑い)、そのような生活をしていらっしゃると思います。

皆様もそういう気持ちで頑張りましょう。

ありがとうございました。